

開放感のある山の集落御槇

御槇地区は、宇和島市中心部から車で約40分の山間部に位置する人口約350人、世帯数約200世帯の集落です。僕は5年前にこの土地が気に入って移住してきました。この先に人家があるのかと不安になるような山道を上りきると、急に視界がパツと開けて、山の上とは思えない開放感を感じる盆地のような地形が広がっています。そんな開放感のある山の集落には、天体観測クラブの方々お墨

特集 ①

魅力を磨いて ファンを増やす！



福田百貨店 店主 黒田 太士 (宇和島市)

付きの星空が広がり、川遊びの出

来る清流があり、泉質が良く常連客も多い

「祓川温泉」もあり、地元の人が自慢する美味しい米が出

来る田んぼが広がり、本当に自然環境に恵まれています。その他にも、芝桜で有名な「山本牧場」があったり、石窯パン・ピザ体験が出来る「石窯お小屋」があったり、僕が運営する「福田百貨店」という古民家カフェ兼雑貨屋さんがあったり、今年からは、廃園になった保育所を復活させた「みまきガーデン」という農家レストラン兼宿泊施設も出来たり、外から来られる方に楽しんで頂ける施設も近年揃ってきました。

■ 明るい話題が多い御槇ですが…

一方で年間10名強のペースで人口が減っており、将来的には集落の存続が危ぶまれています。50%を超える高齢化率と、高齢者の独居率はともに宇和島市で一番高い地域となっています。一言で言えば山奥の過疎地、今後の日本の田舎を



開放感のある御槇の田園風景

先取っている地域です。ちょうど僕が移住した年から3年間、愛媛大学が集落調査に入りました。住民とワークシヨップを重ねながら、将来の人口予測や地区の将来ビジョンなどをまとめ上げてくれたのですが、そこで見えてきたことは、他所から人を呼び込むだけの地域資源に恵まれているというプラスの面と、このまま何もせず20年経過すると人口が半分になってしまうという厳しい現実でした。

■ とにかく行動を！

そこで、「どうにもならなくなってしまう前にとにかく動いてみよう！」という事で、危機感を抱いた有志がイベントなどを企画・実行してきました。例えば、山本牧場の草原に500個を超えるキャンドルを並べ、夜空の天の川とキャンドルの天の川を楽しむ「みまきキャンドルナイト」というイベントを開催しま



山本牧場の草原でみまきキャンドルナイト

夕日の写真展と併せて福田百貨店で開催されるイベント



「福田百貨店」や「みまきガーデン」とい
つた施設が
オープンし、
それらのイ
ベントや施
設をマスマ
ディアで取
り上げてい
ただくこと
で、「御槇が
何だか熱い
らしい」とい
う熱気を帯
びてきまし
た。これらの

した。他には、山の谷間に沈む夕日がと
てもきれいに見える地形を活かして、山
に沈む夕日の写真を全国から募る「みま
き山里に沈む夕日フォトコンテスト」を
開催し、集まった写真の写真展も開催し
ました。おばちゃんたちのグループが年
に一度開催していた手作り市が地区全体
に広がり、地元産の農産物や手作り品を
一堂に販売する「御槇ふるさと市」へと
グレードアップしました。その他、オー
ガニックマーケットの「みまきマルシェ」
や、未就学児を自然の中で遊ばせる「み
まき自然の学校」といった活動も行われ
ています。それらの少し目立つ活動の甲
斐あって、山奥の集落に500人や1、
000人といった数の人がイベントに
訪れてくれるようになりました。さらに

しかし、いかに交流人口が増えてファ
ンが増えたとしても、そこに住む住民自
身に、「自分たちの地域を残したい」とい
う思いや行動がなければ、外部の方々も
協力をしてはくれないでしょうし、移り
住む人も増えないでしょう。逆に、自分
たちの地域に誇りを持って、自分たちの
地域を残したいというエネルギーに満ち
溢れていけば、手を貸してくれる方や移
り住む方が出て来てくれるのではないで
しょうか。すでに全国で田舎の集落は、
消滅に向けて坂道を転がり落ちていく状
態です。そのような現状に直面すると、
その地域に住む人も、「ここはもうダメ

魅力を磨く

比べて格段に増えたことは間違いありま
せん。そんな状況の中で、御槇のことを
気に入って、「御槇ファン」となってくれ
る方々も増えてきました。



オープンした
みまき華々今
みまき春

活動は今の
所まだ定住
人口の増加
ということ
に直接つな
がっていま
せんが、他
所から御槇
に来てくれ
る交流人口
が数年前に

なんだ。」「どうせ先はないから。」「と
いう考えになりがちです。しかし、諦め
の考えが地域に蔓延してしまふならば、
将来はそのようにしかならないと思いま
す。何もせずにいけばコロナと坂道を考
転がっていくだけです。地域の将来を考
えた時に、まずは「自分たちの地域を将
来に残したい」と本気で考える人が、地
域の中にどれだけのいるかということがと
ても大事だと思います。今もこれからも
住民が地元に着用を持っていきいきと暮
らしていくような地域であれば、そこに
住むことがとても魅力的に感じられるは
ずです。「土地の魅力」と「人の魅力」の
両方を感じられる地域となることで、魅
力に引き寄せられるように人が集まるよ
うになるのではないのでしょうか。イベン
トなどで交
流人口が増
えて来た御
槇としては、
地元に住む
人がより地
域に誇りを
持つていき
いきと生活
をしていく
地域になる
ことが、次
なるステッ
プだと思っ
ています。



人でごった返す御槇ふるさと市